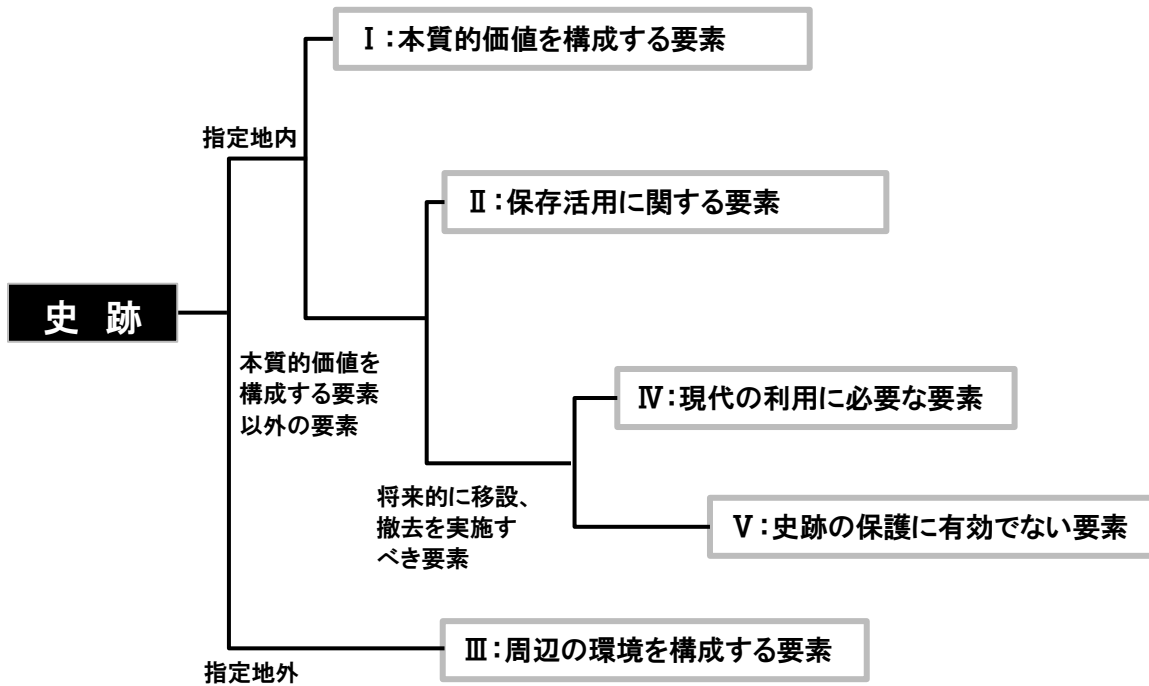


本質的価値を構成する要素一覧

I:本質的価値を構成する要素		
No.	要素名	備考
101	北貝塚	
102	北貝塚中央凹地	
103	北貝塚貝層断面観察施設	
104	北貝塚住居跡群観覧施設	
105	南貝塚	
106	南貝塚中央凹地	
107	南貝塚貝層断面観覧施設	
108	大型建物跡	
109	竪穴住居跡群	
110	埋葬人骨	48体。土器埋葬4基。
111	犬埋葬跡	6体。
112	船着場	東傾斜面の岬状突出部。
113	湧水点	谷沿いに3か所程度。
114	学史的意義	明治(人骨)、大正(土器)、昭和(貝塚・縄文社会)と学史に残る成果多数。
115	土器研究の躍進	加曾利E式、B式が果たした役割。
116	市民による保存運動	4万人の署名を集め、国会で保護の議決。
117	縄文の森	絶滅危惧種を含む希少植物が生息。

*114～117は帳票なし。



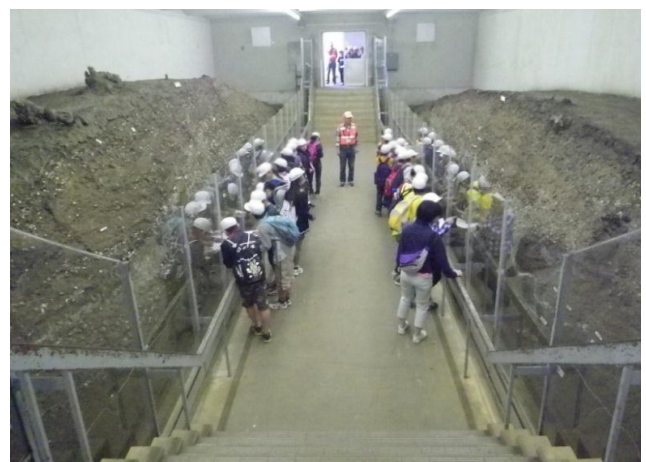
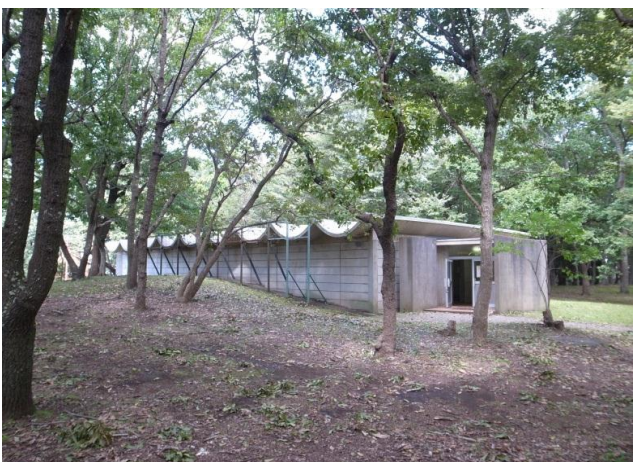
分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	101
名称	北貝塚		
概要	<p>直径130mの環状に幅20m、厚さ2mを超える貝が堆積する。縄文時代中期から後期にかけての遺構や遺物が確認されている。</p> <p>公園として整備され、外周にアスファルト舗装の園路が周る。上部はクヌギ、コナラなどの広葉樹が繁茂している。環状に堆積する貝層には、貝層断面観覧施設と住居跡群観覧施設がある。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・樹木が大木化し、根が貝層にダメージを与えていると思われる。 ・北東側に東京電力の鉄塔が建てられている。 ・一部貝層を切る形でアスファルト舗装の園路が周回している。 ・貝層の上に盛土がなされていないため、部分的に貝が露出し、崩れている箇所がある。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	102
名称	北貝塚中央凹地		
概要	<p>環状貝塚の中央部は貝層や住居跡が検出されない空白部となっている。焚火の跡や煮沸用土器片が多く出土することから「干し貝の加工場」であったと推定されていた。(現在は否定的な意見が多い)</p> <p>地表はクヌギ、コナラなどの林がひろがり、足元は芝が広がっている。</p>		
課題	・樹木が林立し、見通しが悪くなっている。		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	103
名称	北貝塚貝層断面観覧施設		
概要	昭和40年からの発掘調査で検出された貝層断面に、昭和43年3月竣工の覆屋をかけて一般公開している。長さ20m、厚さ2mを超える貝層の堆積が通路の両側に発掘当時のまま展示されている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・建物の耐震強度には問題はないが、建設から50年近く経過しており、建て替えなどを含めた、今後の計画を検討する必要がある。 ・貝層断面に土が被り、貝が見えにくくなっている。 ・調査の段階で土器、魚骨、獣骨などの遺物が抜かれており、実態を反映していない。 ・出入口に階段があり、バリアフリーになっていない。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	104
名称	北貝塚住居跡群観覧施設		
概要	昭和40年からの発掘調査で検出された貝層断面に昭和43年3月に竣工した覆屋をかけて一般公開している。貝層の下からは縄文中期(阿玉台から加普利EⅡ式期)の住居跡が15基発見されている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・解説がないと住居の切り合いや土坑などの遺構を理解するのが難しい。もう少し詳しいパネルを用意する必要あり。 ・出入口に階段があり、バリアフリーになっていない。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	105
名称	南貝塚		
概要	<p>長径170mの馬蹄形に幅20m、厚さ2mを超える貝が堆積する。縄文時代後期から晩期にかけての遺構や遺物が確認されている。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・貝層の範囲を大谷石で示しているが、園路と区別ができない。 ・竪穴住居群への動線が悪い。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	106
名称	南貝塚中央凹地		
概要	環状貝塚の中央部は貝層や住居跡が検出されない空白部となっている。焚火の跡や煮沸用土器片が多く出土することから「干し貝の加工場」であったと推定されていた。(現在は否定的な意見が多い)		
課題	・ 貝塚の内部の樹木によって貝塚の形状が視認できない。		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	107
名称	南貝塚貝層断面観覧施設		
概要	平成5年度に北貝塚と比較ができるよう南貝塚へも貝層断面観覧施設が設置された。昭和39年に調査されたトレンチを平成2年度に再調査し、検出した貝層を、トレンチの両側30mに渡って転写剥ぎ取りを行った。		
課題	<p>露出展示をしている北貝塚の貝層断面に比べれば、状態はよい。貝の堆積や貝の組成など外観からは想像しにくい貝塚の構造を理解できる展示となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・剥ぎ取りから四半世紀が経過し、剥落や汚れが散見される。 ・今後のメンテナンス方法や展示解説方法などを検討する余地あり。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	108
名称	大型建物跡		
概要	博物館と大須賀家住宅の間に検出された長軸19m×短軸16mの大型建物跡。特殊異形器台や石棒など祭祀に用いられたと思われる遺物が多数出土している。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・説明板が設置されているが、建物跡は草地のままとなっている。 ・大須賀家住宅への電源供給のためのケーブルが遺構の上を横切っている。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	109
名称	竪穴住居跡群		
概要	南貝塚の東側での発掘調査により、縄文時代中期の竪穴住居が13棟確認されている。竪穴住居を復元し、内部の観覧や縄文体験などが行える場として活用されている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・一時8棟復元されていたものが、現在2棟、うち使用できるものは1棟のみとなっている。 ・セキュリティー上の問題で内部は常時公開となっていない。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	110
名称	埋葬人骨		
概要	北貝塚では21体、南貝塚からは32体の埋葬人骨が発見されている。出土例が少ない縄文人骨の中にあつて、貴重な研究資料となっている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・現地に解説板、博物館に展示があるが、その重要性がうまく伝わってこない。 ・解説版では南貝塚の南東側に集中して埋葬されているというが、全体に万遍なく出土している。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	111
名称	犬埋葬跡		
概要	全国でも犬の埋葬例は250ほどしかないが、加曾利貝塚では6体の犬埋葬跡が発見されており、貴重な資料となっている。		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館に展示があるが、その重要性がうまく伝わってこない。 ・現地に解説板がない。 		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	112
名称	船着場		
概要	<p>坂月川へは縄文時代を通して海水の流入は認められておらず、6kmほど離れた海岸へは舟を使っていたと推定される。</p> <p>東傾斜面の岬状突出部を船着場として想定している。貝塚と坂月川の比高差は20mあり、急峻な崖となっているが、この部分のみ緩やかな傾斜面となっていることが根拠。</p>		
課題	<p>・解説板があるが、現在の景観は水田となっており、川面も見えないためイメージがしにくい。</p>		



分類	I : 本質的価値を構成する要素	要素番号	113
名称	湧水点		
概要	<p>東傾斜面の岬状突出部(船着場)など、低湿地との境界のから染み出す湧水が複数あり。現在は水田となっており、水量は少ないが枯れることはないという。</p> <p>他にも史跡の南側に入る京願台支谷にはかつて湧水からの水が池になっていたが、埋め立てられてしまったという。</p>		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつか湧水している箇所があるが、現地に何も表示がない。 ・染み出ているが、湧き出るような湧水は見られない。 		

